

新規事業採択時評価結果（平成23年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

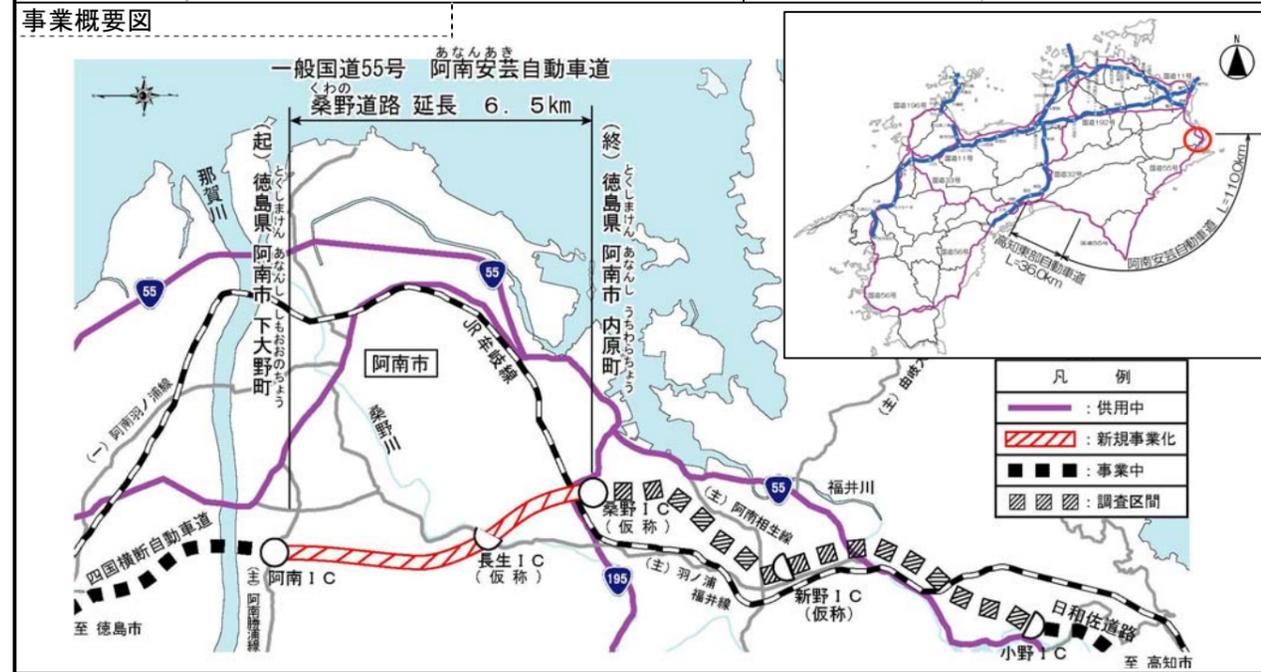
事業の概要

事業名	阿南安芸自動車道 一般国道55号 桑野道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 四国地方整備局
起終点	自：徳島県阿南市下大野町 至：徳島県阿南市内原町	延長	6.5 km		

事業概要
阿南安芸自動車道は、徳島県阿南市から高知県安芸市に至る延長約110kmの地域高規格道路であり、これまでに約9kmが供用済である。
桑野道路は、阿南安芸自動車道の一部を構成する道路で、阿南市下大野町から同市内原町に至る延長約6.5kmの自動車専用道路である。

事業の目的、必要性
桑野道路は、県南地域の抱える第3次医療施設等への救急搬送や近畿圏或いは徳島中心部への地場製品の輸送等に対し、速達性の向上が期待される。さらに、東南海・南海地震による津波浸水被害が予測される地域に対して、緊急輸送道路のリダンダンシーを確保するものである。

全体事業費	約340億円	計画交通量	12,100台/日
-------	--------	-------	-----------



関係する地方公共団体等の意見
桑野道路と県南の高速ネットワークネットワークは、本県発展のため、早期に整備をしなければならない道路であるため、新規事業として予算化をお願いいたします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
新規事業化については、妥当である。

事業採択の前提条件
 ■費用対便益： 便益が費用を上回っている
 ■手続きの完了： 都市計画決定手続き完了（平成22年4月30日）

事業評価結果

費用対便益	B/C	1.3	総費用：246億円 （事業費：237億円 維持管理費：9億円）	総便益：330億円 （走行時間短縮便益：268億円 走行経費減少便益：47億円 交通事故減少便益：16億円）	基準年：平成22年
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=1.1 (交通量 -10%)	B/C=1.7 (交通量 +10%)	
		事業費変動	B/C=1.5 (事業費 -10%)	B/C=1.2 (事業費 +10%)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	洪水対策	○	・現道等の時間損失の削減が見込まれる。 【洪水損失時間】 約288万人時間/年 [計画区間] 【1kmあたり洪水損失時間】 5.5万人時間/年km (H17現況) [センサス区間] 全国平均：1.9万人時間/年km 徳島県平均：1.6万人時間/年km	
		事故対策	○	・事故発生割合の高い区間の対策を図る。 (見能林交差点付近、阿南市橘町付近) 【死傷事故率 (H17~H20平均値)】 単路部：死傷事故率比(県内平均比)6.6倍 交差点部：死傷事故率比(県内平均比)2.4倍 [徳島県直轄国道平均 単路部：56件/億台キロ 交差点部：194件/億台キロ]	
	歩行空間	○	・当該区間は、通学路に指定されているものの、幅員2m未満或いは歩道未設置の区間も存在。当事業により、通過交通や大型車交通が転換され、歩行者・自転車等交通弱者への安全性が向上する。		
	社会全体への影響	住民生活	◎	・第三次医療施設(徳島赤十字病院等)への速達性が向上し、緊急車両による搬送等の向上が見込まれる。 【第3次医療施設60分圏域外の人口(海部郡、那賀町を対象)】 【現況】36千人 ⇒ 【整備後】30千人	
		地域経済	○	・阿南ICから橘港周辺工業地までの所要時間が14分(23分→9分)短縮され、物流強化による地域振興が期待される。	
		災害	◎	・東南海・南海地震による津波浸水被害が予測される地域であり、リダンダンシーを確保し、緊急輸送道路として期待される。	
環境		-			
地域社会	○	・関西圏等の大消費地や徳島市中心部から県南地域を高速道路と自専道で連絡することにより、地場製品の輸送向上等地域の活性化、交流圏の拡大が期待される。			
事業実施環境	○	・都市計画決定 H22.4 済。 ・徳島県知事や阿南市長、阿南市高規格道路建設促進期成同盟会等より積極的な要望活動が行われており、地元の期待は大きい。			

対応方針

費用便益比が1.3と便益が費用を上回ると共に、都市計画手続きが完了していることから事業採択の前提条件が確認できる。また、住民生活や災害対応など、事業効果が高いと判断できる。

以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。